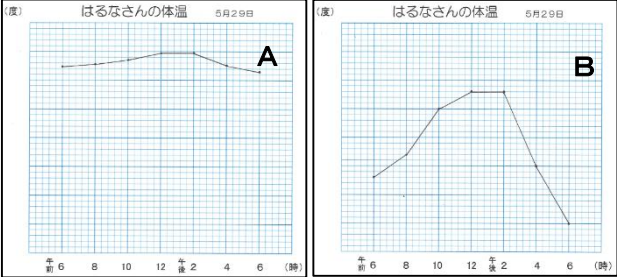
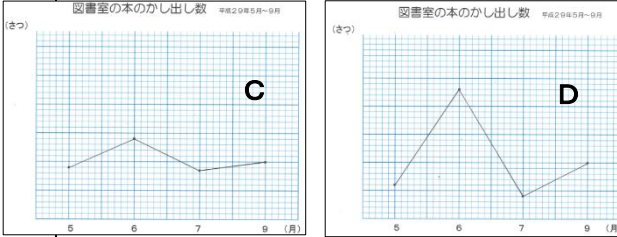


5 本時の学習

(1) 目標

同じデータを基にかかれた2つの折れ線グラフを比較する活動を通して、目盛りのとり方によって折れ線グラフの形が変わることを知る。そして、どちらの表し方がいいかを理由付けすることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 T発問・指示 C児童の反応	・指導上の留意点 ◇評価	備考																
導入	10	1 次のように提示されたAとBの折れ線グラフを比較する。 	・縦軸の目盛りの数値と表題を与えずにグラフを提示する。(情報不足の提示) <table border="1" data-bbox="871 636 1326 719"> <tr> <td>時こく(時)</td> <td>午前6</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>午後2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>体温(度)</td> <td>37.3</td> <td>37.7</td> <td>38.5</td> <td>38.8</td> <td>38.8</td> <td>37.5</td> <td>36.5</td> </tr> </table>	時こく(時)	午前6	8	10	12	午後2	4	6	体温(度)	37.3	37.7	38.5	38.8	38.8	37.5	36.5	折れ線グラフ
	時こく(時)	午前6	8	10	12	午後2	4	6												
体温(度)	37.3	37.7	38.5	38.8	38.8	37.5	36.5													
		C Aの方は変化が小さい。 C AよりもBの方の変化が大きい。 めあて なぜ同じものを表す折れ線グラフの形がちがうのだろうか？	・グラフ提示後の児童の率直な反応(言葉)を板書に記録する。その後、「同じ」部分と「違う」部分の視点で比較させる。 ・表題と基のデータを提示し、AもBも同じものを表していることを確認させる。そして、児童の言葉を引き出しながら、めあて(問い)を設定する。																	
展開	15	2 折れ線グラフの形が違う原因を探る。 T なぜ、Bのグラフは8時～10時の変化は、Aのグラフの8時～10時の変化より大きく見えるのか。 T なぜ、Aのグラフは上の方にあるのか。	・児童の実態を見ながら、グラフ内の点に37.3℃等の具体的数値を記入する。 ・グラフの形が違う原因に迫るための、補助的な発問を用意する。																	
	15	3 図書室の本の貸し出し冊数を表したCとDのどちらの折れ線グラフがいいかを考え、話し合う。 	・「Cがいい」・「Dがいい」・「どちらでもいい」の3つの選択肢を提示し、理由とともに考えさせる。 ・児童の実態に応じて、次の発問を行う。「図書委員会の人々は今年の6月の読書旬間では、去年の6月よりもたくさん借りてほしいと考えています。どちらをかくと思いますか。」	折れ線グラフ																
		まとめ 目盛りの取り方や場所を変えることで、折れ線グラフの形が変わる。	・児童の言葉(思考)を引き出し、板書に記すようにする。 ・意見交流後に、再度どれがいいかを考えさせ、決定させる。																	
		◇ 理由や目的をもち、どれがいいかを考えている。【数学的な考え方】																		
まとめ	5	4 本時の学習を振り返る。	・板書を基に学習したことを見直させ、本時の学習から学んだことをふり返らせる。																	

